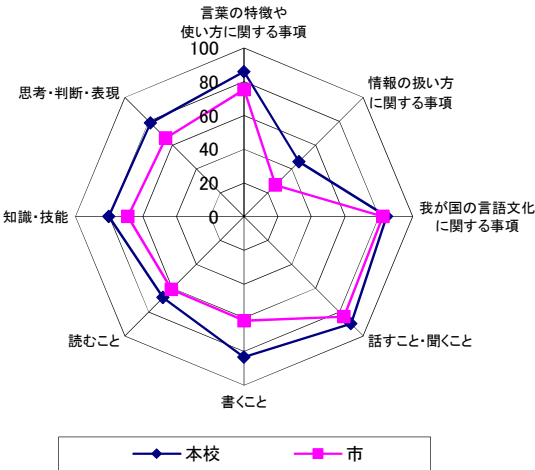


宇都宮市立城山西小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	86.0	75.3	77.1
	情報の扱い方に関する事項	46.2	26.5	27.8
	我が国の言語文化に関する事項	84.6	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	89.7	83.9	84.2
	書くこと	83.3	61.7	64.5
	読むこと	67.9	60.9	61.0
観点別	知識・技能	80.2	68.8	70.3
	思考・判断・表現	78.5	65.8	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

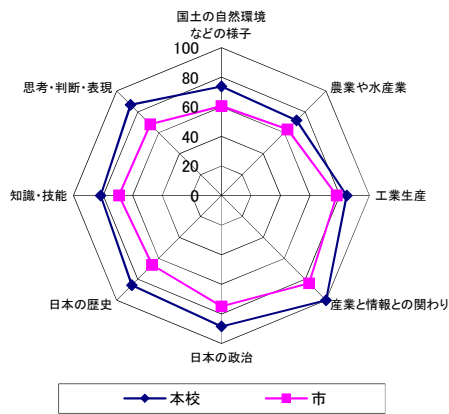
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	本領域の正答率は86%で、市の平均を大きく上回った。 ○漢字の読むこと、書くことのすべての設問において正答率が市の平均を上回った。学習内容がしっかり定着しているといえる。 ●文章の中で文脈に沿った漢字や敬語の使い方が正しい文を選ぶ設問において、正答率が市の平均を下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・話し合い活動の中で、司会者は出された意見をまとめるために、どのようなことに気を付ければよいかを意識して司会させ、円滑な話し合いの方法を身に付けさせていく。 ・国語の授業のみならず、他教科における話し合いや「学級活動」の話し合いの活動の中で、話の内容を明確に伝えるためにはどのようなこと気を付ければよいかを意識して話し合いをさせていく。
情報の扱い方 に関する事項	本領域の正答率は46.2%と低いものの、市の平均を大きく上回った。 ○段落の役割、二段階構成で文章を書く設問の正答率は100%で活用力がしっかり身についていた。	・情報と情報の関係について考え、読み取った情報を理解し、目的に応じて表現する力の正答率が特に低いことから、「国語科」や他教科の中で、新聞をはじめとするいろいろな情報に触れたり、その情報を相手に発信したりする機会を積極的に設けていきたい。
我が国の言語文化 に関する事項	本領域の正答率は84.6%で、市の平均をやや上回った。 ○和語、漢語、外来語について問う唯一の設問であったが、おおむね良好な結果であった。	・朝の読書指導や読書週間などを通して、幅広い内容の本に触れる機会を多く作り、日本の文化に関心を深めていきたい。 ・和語・漢語・外来語の由来や我が国の言語文化に関する事項について、補充プリント等を活用して習熟していく。
話すこと・聞くこと	本領域の正答率は89.7%で、市の平均を上回った。 ○インタビューの内容を捉えたり、意図に応じて、質問を工夫しているかを問う設問における正答率が、市の平均を大きく上回った。 ●自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えているか記述する設問において、市の平均を下回った。	・引き続き、「国語科」や「会話科」、「総合的な学習の時間」を中心に、友達や教師、講師の先生の話の聞いたり質問したりする中で自分の目的に合った情報を収集する学習を多く取り入れていく。
書くこと	本領域の正答率は、83.3%で、市の平均を非常に大きく上回った。 ○書くことに関する1つの選択する設問を除く、ほぼすべての設問において市の平均を大きく上回った。今までの学習内容がしっかり身につけていると考えられる。	・「国語科」や他教科、特に「総合的な学習の時間」等で様々な情報に触れ、読み取った情報を、相手に分かるように目的に応じて文章にまとめる活動を今後も取り入れていきたい。 ・決められた条件の中で自分の考えと理由を明確にして文章化する活動に取り組ませたり、また賛成しない意見に反論する文章を書く機会を、意図的に作っていく。
読むこと	本領域の正答率は67.9%で、市の平均を上回った。 ○説明文の内容を読み取る設問や、情報と情報との関係について理解し、文章の内容を捉える設問において、市の平均を非常に大きく上回った。 ●物語文の登場人物の心情について描写をもとに捉える設問において、市の平均を大きく下回った。	・物語文の読解の授業において、本文の中で登場人物の心情や行動が表れている文に線を引ながら読んだり、そのときの心情を話し合ったりする活動を多く取り入れる。

宇都宮市立城山西小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	73.8	60.5	65.8
	農業や水産業	71.8	63.3	66.0
	工業生産	84.6	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	100.0	83.8	76.6
	日本の政治	88.5	74.9	74.1
	日本の歴史	85.6	66.3	68.3
観点別	知識・技能	81.6	69.3	71.4
	思考・判断・表現	86.8	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

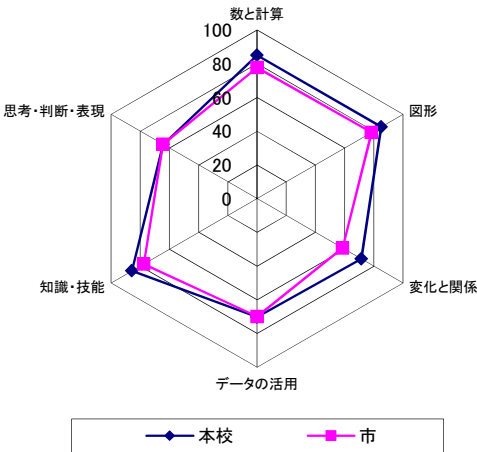
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	本領域の正答率は73.8%で、市の平均を大きく上回った。 ○海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成について、地図をもとに考え、表現する設問において、市の平均を非常に大きく上回った。 ●季節風についての理解をもとに、太平洋側の気候の特色を雨温図から読み取る設問において、市の平均を下回った。	・基礎的な知識は概ね定着しているため、様々な資料から読み取れる情報を把握し、適切にまとめたり、自分が選択・判断したことをそれら適切に表現する力を養っていく。そのために、地図帳や地球儀の他、統計などの基礎的資料を活用して情報を適切に調べまとめる活動を取り入れ、基礎的な技能を高めていく。 ・他教科の学習において、つながりの深い学習内容と関連させて学習を進めていく。
農業や水産業	本領域の正答率は71.8%で、市の平均を上回った。 ○日本の主な食糧自給率を理解しているか問う設問において、市の平均を大きく上回った。	・我が国の農業や水産業における食糧生産について、身近な出来事や事柄から学習問題を見出し、追究・解決する学習を通して、我が国の課題を知り、課題解決に向けて主体的に考えをまとめられるようにしていく。
工業生産	本領域の正答率は84.6%で、市の平均を上回った。 ○自動車の部品を再利用する目的についての理解を問う設問において、市の平均を多く上回った。	・我が国の工業生産の特色を知り、携わっている人々の工夫や努力を知るとともに、貿易や運輸を通して世界の国々とながっていることに目を向けさせていく。 ・資料を活用する際は、関連する要素やその分布などに着目できるよう、視点を与えて資料提示し、それらを関連付けて考えたり表現したりする活動を行わせていく。
産業と情報との関わり	本領域の正答率は100%で、市の平均を大きく上回った。 ○産業における情報活用の現状について考える設問において、正答率が100%で市の平均を非常に大きく上回った。	・我が国の産業と情報との関わりについて、放送や新聞などの国民生活に大きな影響を及ぼしていることや、情報通信技術の活用は国民生活を向上させていることを理解させていく。その上で、自らの体験を想起させ、学習内容と関連付けるとともに、情報リテラシー教育の充実を図り、児童が情報を正しく選択したり判断したりできるようにしていく。
日本の政治	本領域の正答率は88.5%で、市の平均を大きく上回った。 ○議会政治について、資料を基に考え、表現することを問う設問において、市の平均を非常に大きく上回った。	・我が国の政治の考え方や仕組みや働きについて基礎的事項の十分な理解を図るとともに、社会的な事象について、児童会や学校などの身近な組織の仕組みや働きに置き換えて考えられるようはたらきかけていく。 ・授業において、政治に関するニュースを取り上げ、その特色や意味を多角的に考える機会を設けるとともに、自分の考えを説明したり、学級内で議論したりすることで、理解を深めていく。
日本の歴史	本領域の正答率は85.6%で、市の平均を大きく上回った。 ○鎌倉時代の元との戦いについての理解をもとに、防塁が築かれた場所を判断する設問において、市の平均を非常に大きく上回った。	・我が国の歴史を学ぶことで、社会の発展に貢献した先人の業績や優れた文化遺産について理解するとともに、社会の一員としての自覚をもてるようにしていく。 ・歴史に関する話題を取り上げる機会を設け、歴史への興味・関心をさらに高め、我が国の歴史や伝統を大切に国を愛する心情を育む。 ・授業の振り返りにおいて、キーワードを示してまとめを行ったり、学級で考えを交流する機会を設けることで表現する力を高めさせるとともに、多角的な視点を身に付けさせていく。

宇都宮市立城山西小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	85.1	77.7	78.6
	図形	85.0	78.4	74.4
	変化と関係	71.4	58.7	53.0
	データの活用	70.2	69.9	57.2
観点別	知識・技能	85.7	77.5	74.0
	思考・判断・表現	64.3	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

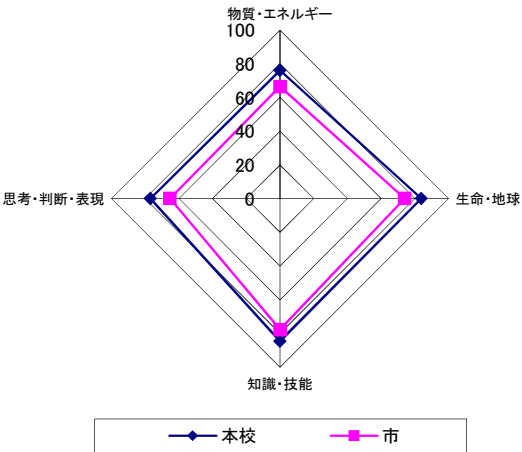
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	本領域の正答率は85.1%で、市の平均を上回った。 ○基礎的な計算力が問われるほとんどの設問において、市の平均を上回っていた。基礎的な技能がおおむね身に付いていると考えられる。 ●文字を使って、2つの数量の関係を一つの式に表す設問において、市の平均を下回っていた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・少人数学習での個別指導や朝の学習等を利用して基礎的な計算の定着に向けた練習を繰り返し行い、確実な定着を図っていく。 ・文章問題や記述を要する設問について、複雑な問題でも解決する力を身に付けられるよう、児童の実態に応じて習熟度別学習なども取り入れて個に応じた指導の充実を図っていく。
図形	本領域の正答率は85%で、市の平均を上回った。 ○合同な三角形の作図や対称の中心を考える設問において、正答率が100%だった。 ●三角形の展開図を組み立てたときに重なる頂点を考える設問において、正答率が市の平均と同程度だった。	・基礎的な設問の正答率が高いことから、今後も補充プリント等を活用して習熟を図っていく。 ・作図をしたり、発展的な設問を解いたりすることで、図形についての理解を深められるようにする。
変化と関係	本領域の正答率は71.4%で、市の平均を大きく上回った。 ○速さの単位の関係を理解したり、百分率について考えたりする設問において、市の平均を大きく上回っており、おおむね理解できていた。 ●面積と人数の割合からどちらが最も混んでいるかを考察する設問において、市の平均をやや下回った。	・基礎的な設問は習熟度別学習を積極的に活用し、個に応じた指導を取り入れながら、補充プリント等を活用して発展的な問題の習熟を図っていく。 ・正答率が低かった混み具合の設問は、「単位当たりの量」の学習に関連している。この単元は、速さや割合等の学習とも密接に関係しているので、授業で繰り返し復習したり、宿題で定着を図ったり、更には朝の学習を活用して確認を行っていく。 ・単位当たりの大きさを考える問題では、「基準量」「比較量」をきちんと把握した上で立式したり問題を解いたりする習慣づけをし、考え方を身に付けさせていく。
データの活用	本領域の正答率は70.2%で、市の平均と同程度だった。 ○円グラフから割合を読み取る設問において、正答率は100%で、市の平均を大きく上回った。 ●ドットプロットから最頻値や中央値を読み取ったり、ヒストグラムを読み取り、選んだ解答に対してその判断の理由を記述する設問において、正答率が低く、市の平均を大きく下回った。	・基礎的事項の定着を日常的に行っていくとともに、発展的・応用的な問題にも取り組ませる機会を設け、単元学習全体の習熟を高められるようにしていく。 ・グラフや文章の読解力が必要な設問、記述式の設問の正答率が低いことから、様々な出題形式の問題に取り組む機会を多くとり、文章問題に対する抵抗感をなくすとともに、出題の条件に合った形で文章で答える経験を多く積ませていくようにする。

宇都宮市立城山西小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	76.0	66.5	66.3
	生命・地球	83.8	74.0	72.6
観点別	知識・技能	84.5	77.6	78.2
	思考・判断・表現	76.9	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	本領域の正答率は76.0%で、市の平均を上回った。 ○未知の水溶液を特定する実験の方法に関する設問において、市の平均を非常に大きく上回った。 ●ふりこが1往復する時間とふれはばの関係を調べるための対照実験の方法に関する設問において、市の平均を下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・問題作りから計画、実験、まとめといった授業の流れを基本とし、実験の目的やその方法といった課題解決に向け、話し合い活動の充実を目指す。その際、「比較する」、「関連付ける」をキーワードにし、問いかけを繰り返すことで、思考の流れを方向付ける。
生命・地球	本領域の正答率は84.5%で、市の平均を上回った。 ○月の形から太陽がある方位と観察した時刻を推測する設問において、市の平均を非常に大きく上回った。 ●植物のつくりやはたらきに関して、実験から対照実験の目的を指摘する設問において、市の平均を下回った。	・観察や実験を通し、原理現象を理解させるため、図や絵、言葉を用いて記録させるなど、ノート指導を工夫する。また、一人一台端末を用いて、学習の要点などをまとめさせ、発表させることで学習の定着を図る。

宇都宮市立城山西小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
道徳科の授業を柱とした豊かな心を育む教育の推進	・宇都宮モデルを活用した授業改善の推進 ・認め励ます学習指導を通して、学習における達成感や自己肯定感を高める。 ・互いが尊重し合いながら学ぶ環境の整備 ・特別活動を要としたキャリア教育の充実と、学びの原動力となる知的好奇心の育成。	・学習に対しての粘り強い取り組みや挑戦する意欲について課題が見られた。 ・児童を肯定的に受け止め、認め励ます指導ができていると考えられる。
児童の学びを深めるための、教師のコーディネート力の向上	・全校共通の学業指導と学びに向かう集団づくり ・ハンドサインを活用した授業の展開 ・児童が考え議論し、学びを深めることのできる授業づくり ・一人一台端末を活用した協働的な学習との個別最適な学びの併用	・普通の授業の様子から見ると、どの学年においても積極的に話し合い活動がされているが、調査結果では、児童の自己評価が高い学年と低い学年に分かれた。 ・話し合い活動や様々な活動が肯定的に受け止められる学級の雰囲気作りができていると考えられる。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・基礎的な事項が十分定着していない児童が一定数見られたため、教科横断的な指導のより一層の充実を図るとともに、個に応じた指導の見直しと最適化をしていく。授業または単元の導入や終末において、学習内容がどのような事柄とつながりがあるのかを意識しながら学習できるようにはたらきかけ、学習内容の有用性を実感できるようにしていく。また、聴くことの指導に重点を置き、児童が様々な情報を受け入れて活用できる素地を養っていく。

・教科や設問の形式によっては無答率が高い傾向が見られたため、振り返り活動の充実を図る。単元末または授業の終末において、児童それぞれが学んだことや学習活動を通して疑問に思ったこと・考えたこと、今後の学習に生かしたいことなどを言語化して表現する機会を設け、自分の考えや学んだことを的確に表現する力を身に付けさせていく。